

具体的な消費生活の事例を取り上げることで、消費者の権利と責任の理解が深まる

キーワード

消費者教育、消費者の権利と責任、高校生、授業実践

結論
(エビデンス)

「消費者の権利と責任」について、生徒の実際の消費生活場面とかかわらせた授業を展開した結果、①自分自身が消費者であることの自覚、②消費者と事業者の情報量の格差についての理解、③消費者と事業者それぞれの責任についての理解、の3点について学習効果があった。

生徒のワークシートには「あきらめず、消費者として責任を持って行動する」、「被害の大小に関わらず、どんなトラブルも積極的に解決していこう」等の積極的な記述が確認できた。

生徒に関わりの深い具体的事例と結びつけて考えさせる授業を行ったことにより、消費者の権利と責任について、単なる言葉だけでなく、権利が尊重される社会において責任を果たすことで社会に参画する意義が理解された。

内容説明

本研究は、高校生実際の消費生活とかかわらせた教材を活用し、生徒自身も消費者であることを意識づけた「消費者の権利と責任」の授業を展開し、消費者としての自立を目指した。

授業実践は、2010年11月、兵庫県立A高等学校1年生7クラス、計280名（男子137名、女子143名）を対象に「家庭基礎」2単位で実施した。「消費者の権利と責任」に関する内容について50分の授業を2回実施した。事前調査で、消費者トラブル経験の有無や「消費者の権利と責任」に関する調査等を実施し、①講義及びロールプレイ（商品選択）、②講義及び事例研究（リコール問題）を実施した後、事後調査で、学習効果を確認した。

学校種

小・中・**高**・大・その他

領域・分野

家族・家庭生活 食生活 衣生活 住生活
高齢者福祉 保育 **消費生活・環境** その他

論文名・題材名等

消費者の自立を目指した「消費者の権利と責任」に関する授業実践

執筆者・実践者等
氏名・所属名

速水多佳子・鳴門教育大学
石田 紘子・元川崎市立はるひ野中学校

掲載・発表学会
誌・報告書・雑誌・
書籍等

日本家庭科教育学会誌

巻・号/
出版社他
(Op-O
p)

第55巻第2
号
(95p-102p)

掲載・実践
年月日/
出版年

2012.08